

## 《 青 森 県 》

令和3年度 全日本音楽教育研究会全国大会 八戸・三戸大会

第69回東北音楽教育研究大会 八戸・三戸大会

第40回青森県音楽教育研究大会 八戸・三戸大会

大会主題「ひろげよう つたえよう こたえよう」

小学校部会研究主題「♪音楽の学び♪ひろげよう つたえよう こたえよう」

### 1 研究主題設定の理由

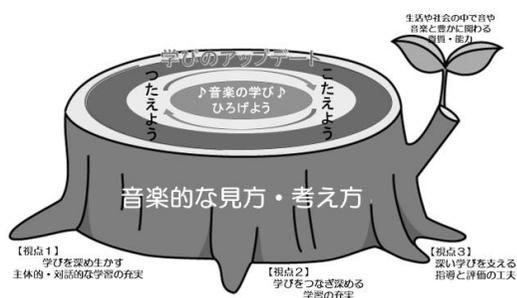
小学校学習指導要領（平成29年告示）では、音楽科の目標に、表現及び鑑賞の活動を通して、「音楽的な見方・考え方」（音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること）を働かせて、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することが示された。

児童が音楽的な見方・考え方を働かせて、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するためには、多様な音楽活動を幅広く体験することが大切である。また、児童が思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりする過程において、理解したり考えたりしたこと、音楽を豊かに表現したこと、友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図って交流し共有・共感したことが、自分の生活や社会とどのように関わり、どのような意味があるのかについて、意識できるようにすることも大切である。

つまり、音楽的な見方・考え方を働かせるためには、児童一人一人の「音楽の学び」の土台づくりが大切である。そのために、授業の中で「何を学ばせるのか」を意識しながら、児童の思いや願いを表現（共感・共有）させていく。児童が主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わう授業を実践することで、児童の学びがアップデートされ、生活や社会の中で音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成につながると考える。

### 2 研究の内容

本研究は、令和元年度に行われた、全国大会東京大会の「成果と課題」を受け、「継続性・連続性のある全国大会研究実践」を目指し、3つの研究の視点を引き継ぎ、それぞれに指導の手だてを考え研究を進めた。



#### 【視点1】 学びを深め生かす主体的・対話的な学習の充実

「何をするのか」「何を学ばせるのか」を意識し、題材構成や教材研究をし、授業づくりをすることで児童が見通しをもち、主体的・対話的な学習を実現する。

#### 【指導の手だて】

##### ◇常時活動について

本時のねらいにあった「常時活動」により、本時の見通しをもたせるようにする。

常時活動には、年間を通して取り組み力を付けさせるものと、本時のねらいに迫るためのものがある。どちらも大切であるが、今回は、本時のねらいに迫るための常時活動に取り組ませる。毎時間、授業の初めに設定し、本時のねらいにあった常時活動をすることで、児童が見通しをもち主体的に学習に取り組むことができるようにする。本時で育てたい力は何かを考えて取り組ませるので、歌唱の授業であっても、押さえないことがリズムであ

れば、リズムに関する常時活動となる。

【例：第5・第6学年鑑賞

「二つの民謡をききくらべよう」

・伝統芸能「駒踊り」のおはやし演奏を常時活動に取り入れ、拍節のある曲を体験させることで、二つの民謡の曲想の違いに気付くことができるようにする。

【例：第3学年歌唱

「曲に合った歌い方を見つけよう」

・常時活動「ショート・ミュージックタイム」で、作曲家小林真人氏の曲や他の曲などを歌い、曲調の違いを体感し、「旋律」「強弱」「呼びかけとこたえ」「反復」を感じ取ることで、思いや意図に合った表現を工夫しようという見通しをもたせる。

◇学習過程について

学習過程全体を見通し、「①常時活動②教材との出会い③教材との関わり④教材を味わう」のつながりの中で、「何を学ばせるのか」を常に意識する。「問題解決的な学習を支える活動の視点（大会誌参照）」を取り入れた指導を行う。

【例：第3学年歌唱

「曲に合った歌い方を見つけよう」

・導入場面で作詞・作曲者の小林真人氏から曲に込めた思いを聞くことで、「どんな思いを込め、どんな表現にするか」という課題を共有させる。

◇対話的な学びを支える教材との関わりについて

本時のねらいにあった教材との出会わせ方を工夫し、感じ取ったことと、聴き取ったこととを「音楽を形づくっている要素」や楽譜・歌詞・作者・背景・時代・国・挿絵と結び付け、考えを共有させることで、児童が見通しをもって主体的に対話したくなるようにする。

【例：第4学年器楽

「虎舞のおはやしを楽しもう」

・楽器を演奏する人と聴く人とに分かれて、

友達の演奏を聴き合うことで、困っている点やよい点を見付け合い、よりよい演奏をするためにはどうすればよいか、気付いたことをボードにメモしたり話し合ったりして、対話的・協働的な学びを通して、本物のお囃子に近付けるようにする。

**視点2** 学びをつなぎ深める学習の充実

他者の考えや思いに触れる経験を繰り返すことで、児童が自分の感じ方や考え方をひろげ（学びのアップデート）、音楽表現や鑑賞の学習が深められるように、次の手だてを工夫する。また、「つなげる」を意識した授業づくりをし、学びを深められるようにする。

【指導の手だて】

◇必要感について

「②教材との出会い③教材との関わり④教材を味わう」学習の充実により、学びが深まると考えられる。そこで、音楽の学びが自分にとって意味のあるもので、生かしていきたいと思えるように、必要感をもたせる工夫をしていく。

【例：第6学年音楽づくり

「動機をもとに音楽をつくろう」



・一人1台端末アプリ「Chrome Music Lab～Song Maker～」を活用することで器楽演奏の技能をカバーし、音符を読むのが苦手な児童でも容易に音楽づくりができる。

【例：第2学年鑑賞 「いい音 みつけて」】

・どんな時計なのか、シンクペーションのリズムやコーダの部分の音から、時計の様子について想像させる。そして、自分が感じ取ったことを聴こえた音やリズムと結び付け、音直線を活用しながら曲想と音楽の構造との関わりについて共有させる。

【例：第6学年音楽づくり

「動機をもとに音楽をつくろう」】

・前時に学習した動機の変化(A～C)を確認し、それらの技能を使って音楽づくりをするという見通しをもたせることで、試行錯誤しながら思いや意図を膨らませていくことができるようにする。

【例：第2学年鑑賞「いい音 みつけて」】

・特徴的な音色やリズムを何度も聴かせ、どんな時計かを想像し記入させることで、曲想と音楽の構造との関わりについて気付かせる。

**視点3** 深い学びを支える指導と評価の工夫

児童の変容をみとり、次の指導に生かすことができるようにする。

【指導の手だて】

◇発問・ワークシート等について

「何ができるようになるか」を明確にし、「②教材との出会い③教材との関わり」の場面において、児童一人一人の変容の自覚を促し、活動をみとるために発問を吟味し、ワークシート等を工夫する。

ワークシート等としているのは、ワークシートの他に教科書や楽譜への書き込み、一人1台端末への記録等も含むためである。

【例：研究授業Ⅳ 第4学年器楽より】

・振り返りの場面では、音楽的な要素に関わることだけでなく、歴史をつなぐ活動をしていることを意識させ、学習の価値を感じ取らせて主体的な活動につなげていく。

【例：第3学年歌唱

「曲に合った歌い方を見つけよう」】

・題材を通して、同じワークシートに継続して書かせることで、児童の変容を自覚させ、教師が評価することができる。

### 3 研究の成果と課題

#### 3つの視点に基づいて

**視点1** 学びを深め生かす主体的・対話的な学習の充実

○「何を学ばせるのか」を意識し、本時のねらいに合った「常時活動」を授業の導入部分に入れることで、既習を生かして活動し考える姿が見られ、見通しをもった主体的な学習につながった。

**視点2** 学びをつなぎ深める学習の充実

○自分の感じ方や考え方をひろげられるように、「つなげる」を意識して授業をすることで、児童は思いや意図をもち「つたえたり・こたえたり」することができた。また、友達の意見を取り入れながら学ぶ姿も見られた。

**視点3** 深い学びを支える指導と評価の工夫

○発問やワークシート等を工夫することで、児童の変容の自覚につながった。また、教師は、発言やワークシート等への記述内容を評価に活用したり、次の学習につなげたりすることができた。

音楽科で育成を目指す資質・能力の3つの柱に基づいて

○「共通事項」に示す「音楽を形づくっている要素」を関連付けた指導を授業の中で意識的に繰り返すことで、新たな知識と技能の習得につながった。

○ワークシート等での評価を吟味するなど、思考・判断のよりどころのポイントを絞って設定したことで、思考力・判断力・表現力等の育成につながっている。

●歌や演奏の工夫をする場合、楽曲がもつ音楽の特徴をもとに、思考・判断・表現できるように、演奏の仕方が上手な児童を参考に考えたりするなど、豊かな表現をするための手掛かりを教師が予想し、準備しておく必要がある。

●「必要感をもたせる授業づくりの工夫」と、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方について再検討していく必要がある。

●資質・能力の育成という視点から本研究の成果と課題を検証し、さらに、今後の授業改善に生かしていきたい。